

夢門塾相模大野 自己評価表まとめ

記入日：	2020 年 12 月 27 日
職員8名	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員と指導訓練室のスペースは適切である	4	2	1	相談室が機能していない
	②	職員の配置は適切である	3	5		児童10人で4人の配置がある、児童:職員が2:1がベスト
	③	衛生面の管理が行き届いている	6	2		
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定を振り返り)に、広く職員が参画している	8			業務改善を含めた研修があればいいと感じる
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者様の意見を把握し、業務改善につなげている	8			
	⑥	自己評価の結果を公開している	8			
	⑦	職員の資質向上のため、会議・研修の機会を確保している	5	3		
適切な支援の提供	⑧	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を立てている	8			
	⑨	活動の計画をチームで行っている	8			
	⑩	活動の計画が固定化しないよう工夫している	8			
	⑪	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定し、支援している	8			
	⑫	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動を計画している	7	1		高学年・中学生に対して異なる活動やリーダー役などの提供があればいいと感じる
	⑬	支援開始前に、職員間で打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			
	⑭	日々の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1		
	⑮	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	8			
	⑯	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	8			

関係機関、保護者様との連携	⑰	学校との情報共有（年間計画・行事予定等予定の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行えている	5	3		
	⑱	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所または学校等との情報共有と相互理解に努めている	3	5		
	⑲	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	6	2		
	㉔	児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3		職員全員としては不参加
	㉕	日常的に子どもの状況を保護者様と連携し、発達状況や課題について共通理解を受けている	8			
保護者様への説明責任等	㉚	運営規定、支援の内容、利用者負担等に付いて丁寧な説明を行っている	8			
	㉛	保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言を行っている	8			
	㉜	保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している	—	—	—	コロナ対策のため本年度は開催が困難であった
	㉝	子どもや保護者様からの苦情について、対応体制を整備、周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			
	㉞	定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している	8			
	㉟	個人情報保護に十分注意している	8			
	㊱	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			
	㊲	地域の行事に参加したり、事業所に地域住民を招待する等し、地域に開かれた事業運営を行っている	1	7		・コロナの影響で難しい・福祉施設や公的機関の見学をしたい
非常時などの対応	㉿	緊急対応、防災、感染症マニュアルを策定し、周知している	5	2		教室等での大声を気を付けたい
	㊲	非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている	8			
	㊳	虐待防止のため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			
	㊴	いかなる場合も身体拘束を行うか否かについて、組織的に決定し、子どもや保護者様に事前に十分説明し、了承を得た上で支援計画に記載している	8			
	㊵	保護者様に記入いただいた与薬表をもとに、子どもへの投与を行い、チェックを行っている	2	5	1	投与児童の該当者はいない
	㊶	ヒヤリハットを綴り、事業所内で共有している	8			